

傾聴力向上研修

(株)話し方研究所 福田賢司

コミュニケーションのレベルアップを目指そうと考えた時、多くの人が“話す”ことに注目します。住民説明や対立調整、交渉の場面を思い浮かべ、それらに円滑に対応するためには、“話す技術”が必要だと考えるのです。しかし、話すためには、その前段階にある、“聞く”ことに注目しなければ、話すコミュニケーションが機能しません。相手から意見や情報を引き出し、相手が何を求めているのか、何を知りたがっているのか、何に抵抗感を覚えるのか、話し合いの接点を見出してこそ話す技術が役に立つ、ということが言えます。

聞くことが状況を変えていく力になると言えるかもしれません。にもかかわらず、“聞く”ことにフォーカスした研修は少ないのが現状です。

ここで学ぶ聞き方のスキルは必ず皆さんのお役に立てると信じています。



話し方研究所 代表取締役。金融業界を経て、平成8年、話し方研究所の営業として入社。全国の自治体や人事院、自治大学校、市町村アカデミーなどの官公庁、日本能率協会等の各種団体、民間企業での研修を手がけ、研修先は約700社の団体に及ぶ。日常の出来事を用いた臨場感ある講義は、聞く人を惹きつけ、鋭い視点のコメントや実習指導に定評がある。講師指名率は社内トップ。楽しめる場をつくり、本音で指摘しあうことをモットーに、熱血指導にあたっている。専門領域はクレーム、ハードクレーム、説明力強化、住民説明会実践、プレゼンテーション、スピーチ訓練、折衝・交渉力、ビジネスマナー、モチベーションマネジメント、ディベート等を扱う。